

中学部知的障がいの生徒 に対するかけ算の指導

生徒の実態

- 中学部生徒 知的障がい
- 発達年齢：5歳10ヶ月
- 足し算は30程度までの計算ができる。
- 引き算は2桁ー1桁の計算ができる。
- 時計を読むことができ、○時間前後を答えることができる。
- 硬貨（2から3種類で各5枚程度）の合計を求めることができます。
- かけ算については、なかなか定着していかないのが課題である。

本プロジェクトのねらい

かけ算の九九の正答率 100%へ

〈指導場面〉

- ・対面学習
- ・日常生活の指導 (9:00 ~ 9:10) 週3 ~ 5回

〈指導方法〉

- ・iPad パワーポイント スライド教材
- ・週の最終日にプリントでのテスト

保護者の願い

- ・これまで取り組んできたことが定着して欲しい。
- ・国語（漢字の読み書き）や数学の学力（計算力、時計、お金）が少しずつ向上して欲しい。

教員の願い

- ・できる部分をもっと伸ばしていきたい。
- ・定着を促せる有効な手立てを見つけたい。

指導方法（介入Ⅰ：数字のみ）

コンサル前

1. 誤答箇所のみプロンプトフェイディング法（3試行）

+

流暢性指導（15試行）

$$3 \times 8 = 24$$

$$3 \times 8 = ?4$$

$$3 \times 8 =$$

2. 誤答前後の指導 5回（バックステップ修正法）

$$3 \times 7 =$$

$$3 \times 8 =$$

$$3 \times 9 =$$

確実に正答できるようになったら、1つ前のステップ（必ず正答できる）
九九に戻って指導を開始し、正答したら盛大に褒める。

アドバイザーからのご助言

- ・「○×○=○」全て唱える
- ・現状がプリントレベル → 会話レベルでの実践へ
(視覚刺激) (音声刺激)
- ・エコーを意識し、一言一句同じように読む
- ・イントラヴァーバルな実践へ
わしのマークの 大正製薬
ごほんといえば 龍角散

次の指導目標について

①よりエコー（音声）を意識した実践

★数字から『ひらがな』へ移行

②イントラヴァーバルな実践

★『かけ算かるた』の実施



指導方法（介入2：数字+ひらがな）

コンサル後

1. 誤答箇所のみプロンプトフェイディング法（5試行）

+

流暢性指導（10試行）

2. 誤答前後の指導 5回（バックステップ修正法）

①

いいち = し
4 × 1 = 4

②

いいち = し
4 × 1 =

③

いいち = し
=

④

いいち =
=

⑤

=

※3の段は、正答率が100%を維持したため介入2から除外

指導方法（介入3：ひらがな）

コンサル後

1. 誤答箇所のみプロンプトフェイディング法（4試行）

+

流暢性指導（10試行）

2. 誤答前後の指導 5回（バックステップ修正法）

①

②

③

④

しいち=し

しいち='

しいち=

=

※3の段に加え、5の段、9の段も正答率が100%を維持したため介入3から除外

各段の正答率

コンサル前

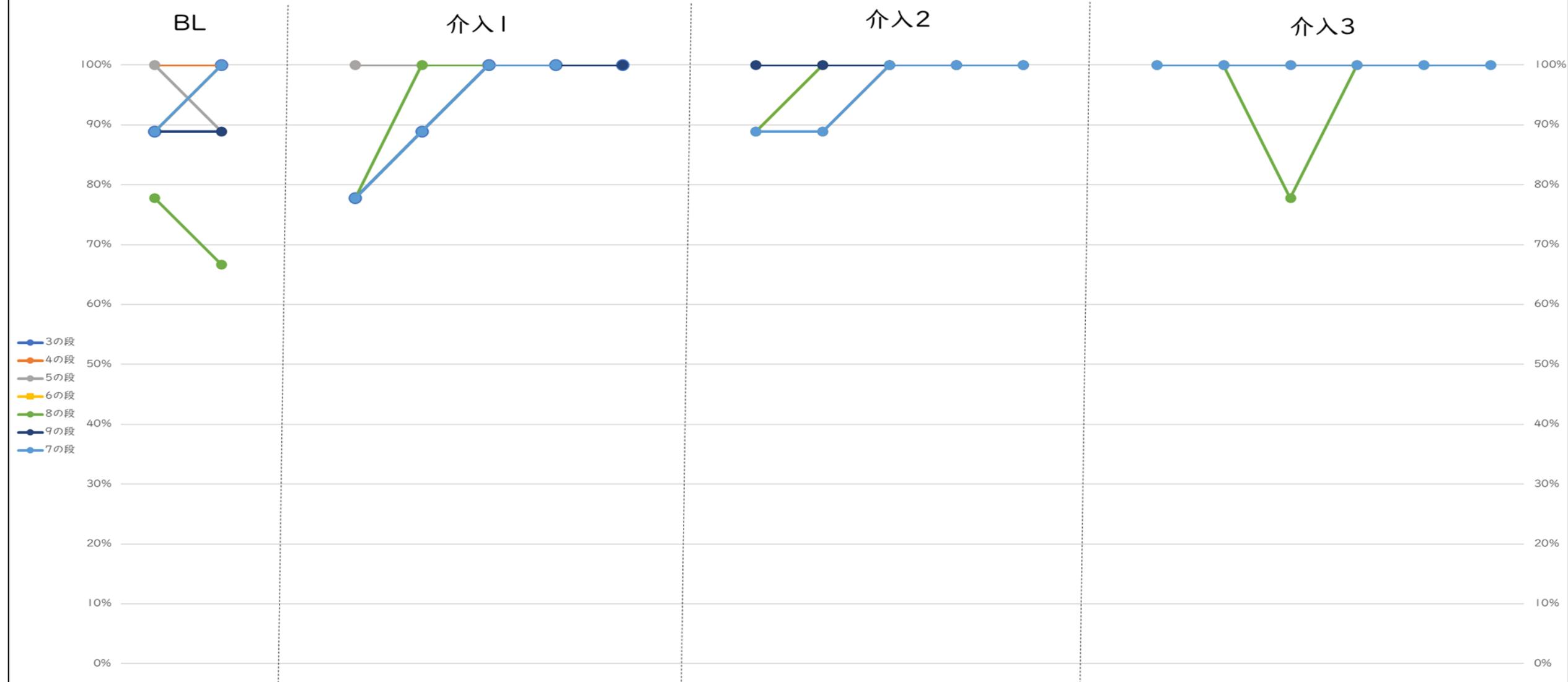
コンサル後

BL

介入1

介入2

介入3



今後の取り組みについて

- ・イントラヴァーバルな実践を行う
- ★『かけ算かるた』の実施
- ・『かけ算かるた』を通して誤答があった場合、記録をとり、プロンプトフェイディング法で確認する。



成功のポイント

- ・プロンプトフェイディング法のスライド（3種類）やかけ算かるたといった教材を開発し、それらが非常に効果的であった。
- ・実践の中で早期に本人のつまずきに気付くことができた。
例）3の段から誤答率が高まる「4」と「7」の発音
- ・正答率が高まることで、本人が自信を持って活動に取り組むことができた。
- ・エコーを意識し、イントラヴァーバルと「ひらがな」で取り組むと、本人がよりスムーズにかけ算を唱えることができ、正答率が非常に高まった。

